

読	み	切	り	ギ	ア	教	室													
文	学	部	3	年		小	林	隆	人											
選	ん	だ	本	の	タ	イ	ト	ル	:											
『	教	養	力	一	心	を	支	え	、	背	骨	に	な	る	力	一	』			
著	者	:	斉	藤	孝															
出	版	社	:	株	式	会	社	さ	く	ら	舎									
出	版	年	:	2	0	1	4	年												

心の内に広がる壮大な森

父親に本を読めと常々言われていたおかげ
か、現在の私は読書をする習慣がついている。

昔は口うるさいと思っていたが今となっては
感謝している。自分一人だけの人生では経験
できない多くのことを知る機会を与えてくれ
たのだから。

教養は自己を形成し支えとになってくれるも
のである。また、地域や時代などの文化ごと
に共有すべき教養がある。明治大学で教授を
務めながら教育学などを研究している著者の
齊藤孝さんは、本書で教養をこう定義し、教
養の身に着け方やもたらすメリットを説明し
ている。著者は本書のほかにも古典の名作を分
かりやすく説明した本を数多く出版するなど、

教養の魅力を発信し続けている人である。

本書は教養を身に着ける方法をいくつか提案しているが、読書することの重要性を特に強調している。読書をすることで先人たちの考えや知識など幅広い教養が得られ、様々な見方を持つことができるからだ。

ただ、読書さえすれば教養が身につくわけではない。単に知識を知っているだけでなく、自らの文章や話し言葉の中に引用できてこそ真の教養といえるのだ。表現することによって教養は自分のものになり、創造性にまでも影響を与えてくれる。

昨今、情報社会の影響で古典の名作などが気軽に閲覧できるようになり、かえって教養の価値は軽視されてしまっている。心の病を持つ人が増えている現代、人々に足りないのは心の支えとなってくれる教養ではないだろうか。苦境な状況にいる時こそ心に深く入り込む教養は、内面を豊かにして世界観を広げてくれる。斉藤孝さんは、そんな教養の良さ

をみんなに知ってもらいたいと思い本書を執筆したのだろう。

本書を読みまだまだ未知の世界があることを実感した私は、それまで全く関心のなかった美術に関する本を読み始めた。その本で有名な作品に関する背景知識などを学んだ結果、

芸術品に対する見方が広がって美術という世界をもっと知りたいと思うようになった。

悩みを抱えていたり、平凡な日常に退屈している人はぜひ本書を手にとってほしい。心の支えや新しい世界が見つかり、より人生を豊かに生きるきっかけとなってくれるだろう。